

一、上役は組合員に對して・持場の變更・勞働加重・昇給・賞與・に不公平な取扱等をして組合の切崩しに狂奔した、故に意思の弱い者はとても堪へ忍ぶ事が出来ずして脱落したのも無理とは思はれぬ。

二、亦是御用暴力團の横行であつて之れなどは言語に絶した振舞であつた、工場の従業員でもない彼等が棍棒などを持つて工場内を横行し、作業中の組合員を威したり甚しきは殴打負傷さへ與へ、又は夜中組合事務所を襲撃し硝子戸や陳列など目茶苦茶に破壊し、組合員が血と涙で築き上げた購買の商品を街頭に撒き散したり、工場往復の組合員を途中で迫害を與へたり、實に野藩の行爲を盡したのであつた。

三、其れと又一面に會社の取りし手段は奴隸思想鼓吹、修養團の強制普及に務めた、會社が講習會其他に費消せし金額は亦莫大なりと云ふべし。

四、遂には組合幹部の鐵首を以て組合の撲滅を策したが、其の結果は争議となりて一般市民迄迷惑は及んだ、最後には我利ゴマ摺り職工の一部に利権を與へ、多數無自覺職工を集めて御用団体庚午會を作り上げた、其の結果は従業員間の感情闘争はいやが上にも激發し、工場内の平和は乱れに乱れた、多數従業員の迷惑は元より作業能率の低下を見るに至れり、而して一部庚午會の幹部は甘い汁を吸ふたか知らねど、多數の會員は彼等の踏台となる事を今日明白に自覺し來り、本年になつてから數ヶ月に渡る内紛さへ起すに至れり！

更に又外部に對する組合の闘争を検討するに、階級的立場から持込争議の指導、各所の争議應援、粉議の調停、政治闘争、國際勞働代表其他の歡迎、演說會の開催、各友誼団体との親睦亦は支持政黨と協力して横暴極りなき九軌征伐、現今朝の半賃電車も五錢の電車賃が四錢以下になつたのも此の裏には吾組合の同志が調印運動や、ピラ撒や、小倉に於ける沿線住民大會に於ける犠牲と奮闘を忘れてはならぬ。

最後に消費組合に就て一言して置きたい、工場附近は以前から物價の高き事市内第一との評判があつたにも

かゝならず、三十年の歴史と北九州屈指の大工場を誇るセメント會社には其れ迄従業員の福利施設の第一に掲げらるゝ購買又は類似の何ものも無かつた、たゞ二十名ばかりの従業員が金を出し合ふて、下關からせめて米だけなりと共同で買入れんと計企せし事があつた時に、某係長が理由の如何にかゝらず其れさへ差し止めた事實さへあつた。後に其の係長こそは庚午會の創設者とも申す人である。

扱て右の如き状態なりし時に組合は結成後五ヶ月目に早くも工場附近商人の嵐の如き反對の中に萬難を排して、セメント従業員消費組合を組織した、其の結果暴利を貪つて居た附近商人が之に對抗して物價の値下を斷行した、恩典を蒙つたものは單に組合員のみならず一般附近の市民迄及んだ。

それから一ヶ年を経てから庚午會が生れ、其の會の唯一の生命とも云ふべき購買を始めた、之だけは一面から見て庚午會の只一の事跡として於てよいだろう、而して吾々の消費組合と共に附近の商人に及した影響は實に大きかつた。

遂には市が數萬金を投じて物價調節の爲社會事業の一に數へて居た葛葉公設市場をさへ廢止するに至つた。以上の如く直接間接共に吾組合の五ヶ年間に爲し來れる闘争の足跡は之所に燦として輝いて居る。

翻つて誠に遠慮に堪へない事は、庚午會が自主的団体でなくして其幹部が常に會社の上役の御氣嫌を伺つて會の存在を續けて來た事である、其の爲従業員全体は大なる損失を蒙つて居る。

自主的組織の立場にある吾組合側よりは暴力團以上に困つた存在の一つであつたが、其れも今日社會の大勢には如何ともする能はず余程、最近覺醒しつつある事を見る時に、同志諸君と共に此機會に喜びたい、正義は最後の勝利を得るものたる事を確信して筆を止む。